

令和5年5月31日

学校だより



6月号

横浜市立美しが丘東小学校
学校長 藤本 光子

ホームページ <http://www.edu.city.yokohama.jp/es/utsukusigaokahigashi/>

「新時代」をよりよいものに

副校長 大塚 美穂

5月27日(土)の運動会には、たくさんの応援をいただき、ありがとうございました。3年ぶりに、児童、保護者の皆様、地域の皆様が集まり実施することができた運動会に、心が熱くなりました。そして、「いよいよ、新時代が始まった。」と感じた一日でもありました。

今年度着任した私にとっては、美しが丘東小学校での運動会は初めてでした。過去の運動会とはどんな様子だったのだろうと思い、プログラムを探してみました。昨年までの3年間は、1年生から6年生が一堂に会することができないこともあったり、演技や競技も制限があったりと、実施の仕方を工夫し、保護者、地域の皆様にご協力いただいていたことが分かりました。

同時に、こんな状況だからこそ、「運動会で大切にしていること」というものがあつたということも伝わってきました。例えば、「美東ソーラン」は脈々と続く、美東の運動会の歴史であることや、低・中・高のブロックでの連携を大切にしていることなどです。この3年間、様々な制限を受けてきた運動会だからこそ、「大切にすることは何か」ということを改めて考える時間であったのだと思います。

今年の運動会で大切にしてきたことは「子どもの活躍の場を多くする。」ということでした。それは、競技を増やすという意味だけではありません。運動会の演技の練習では、2学年で協力し、教え合う姿が見られたり、競技の作戦を立てたりしていました。これまで大切にしてきた「低・中・高ブロックでの連携」が、さらに強くなったのだと思います。応援団が相談をしながら応援内容を決め、リレー選手たちは話し合いながら練習を積み重ねていました。ほんの一例ですが、このような、子どもたちがより深く運動会に関わるような活躍を求めてきました。だからこそ、運動会での輝く子どもたちの姿が見られたのです。

コロナ禍での3年間は、私たちにこれまでの考えを見つめ直すきっかけにもなりました。今回の運動会も引き続き午前中開催としました。この3年間の経験により、子どもたちにとって、午前中に集中して実施する方がよいことが分かったからです。時間短縮などの工夫することにより、子どもたちが「やり切った!」と思える内容を午前中に凝縮して行うことができました。これは、この3年間がなければ気付かなかつたことかもしれません。

運動会だけでなく、これまで大切にしてきたことと、改めて見つめ直したことを合わせて、まさに「新時代」の教育活動となっていくことを感じています。すでに実施している家庭科の調理実習、6月から始まるボランティアの方々による読み聞かせ、水泳学習など、新しい工夫をした活動が次々と始まります。常に子どもたちを中心にして、「大切にしたいこと」を確かめながら、子どもたちと一緒によりよい教育活動を創り出していきたいと思つています。そして保護者の皆様、地域の皆様のお力をいただきながら、新時代にふさわしい、よりよい教育活動となっていくように努めて参ります。